

資料館だより

2025年 秋号

contents

- 春の特別講演会・企画展、館長挨拶 …… 1
- 行事報告、語り部さんのおはなし会 …… 2
- 夏休みイベント …… 3
- 資料館ニュース、インフォメーション …… 4

春の特別講演会・企画展

令和7年4月29日(火・祝)

資料館では、開館記念日に合わせて4月29日(火・祝)に、春の特別講演会を開催しました。この講演会では、青島恵子氏(医療法人社団継和会萩野病院院長)に「イタイイタイ病と昭和100年ー過去・現在・未来ー」と題し、昭和100年となる今、イタイイタイ病の歴史や研究成果、また萩野昇医師との思い出などについて講演いただきました。

講演では、イタイイタイ病は未だ終わっておらず、「21世紀の公害病である」ということも強調され、約80名の参加者は真剣に耳を傾けていました。



野田館長の挨拶

また、4月25日(金)～5月6日(火・振休)には、資料館1階展示室通路にて「『萩野昇医師の生きた時代』写真展」を開催しました。



青島院長の講演



質疑応答の場面

ゴールデンウィーク期間中の開催ということもあり、県内外からの来館者は、一枚一枚熱心に写真を眺めていました。

「春の特別企画展」を同時開催



「萩野昇医師の生きた時代」写真展

特別講演会参加者の声

- ・萩野先生のご家族の歴史も含まれており、面白かったです。カドミウム腎症に関しては、男女差がないことを知り、勉強になりました。(30歳代)
- ・イタイイタイ病の経緯を知ることができました。カドミウムの怖さを知るとともに環境問題の難しさを知りました。風化しないようにすることも大切であると思いました。(50歳代)
- ・萩野医師の苦勞がよく分かりました。今のように情報がすぐ伝わらない時代に、広く知ってもらうことの難しさを知ることができました。(70歳以上)

鉍毒説への執念が実って勝利の栄冠



上記表題は、岡山大学名誉教授小林純(1909-2001)先生が萩野昇(1915-1990)先生の追悼集発刊に際し寄稿された原稿のタイトルです。小林先生は、水質調査の大家で、種々の金属の含有量を同時に定量できるスペクトグラフを日本でいち早く導入され、カドミウムが神通川の水や土壌そして解剖に提供されたイタイイタイ病(イ病)患者の臓器に高濃度で存在することを証明されました。本年、期せずして、小林先生の関係者の方から先生自筆の追悼原稿を資料館に寄贈したいと申し入れがあり、令和7年春の特別企画展において、ありし日の萩野先生の写真とともに展示させていただきました。

原稿には、萩野先生は、イ病患者が多発した地域の中心に病院があった関係で、多くのイ病患者を観察し続けた医師で、誰

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 野田 八 嗣

よりも早くから鉍毒に疑いの目を向けた人であったと記されています。天下の大鉍山に対し真っ向から鉍毒説を唱えたため、さまざまな迫害や中傷を受けたそうですが、先生は信念を曲げない人で、孤独と闘い鉍毒説に執念を燃やされたと述べられています。イ病の完全勝訴は、地域住民の皆さんに加えて学者や弁護士の先生など多くの方々の並ならぬ努力によるものですが、その原点は、イ病患者に真摯に向き合い鉍毒説に執念を燃やされた萩野先生にあることを窺わせる追悼文でした。

今年は萩野昇先生没後35年になりますが、改めて、一開業医でありながらイ病の究明と患者救済に向きあった先生の生き方には敬意の念を抱かずにはいられません。資料館では、今後ともイ病の恐さと先達の方々が築いてこられた克服の歴史を伝えてまいります。

語り部・解説ボランティア研修会

6月14日（土）に語り部及び解説ボランティア向けの研修会として、新潟県立環境と人間のふれあい館の館長藤田伸一氏をオンラインで招いて、「新潟水俣病を学ぶ～偏見・差別の解消、環境を守るために～」と題して講演いただきました。



藤田館長の講演



語り部の中坪さんの講話

藤田館長は、偏見・差別を解消し、患者さんが申請しやすくなるためにも、正しい水俣病の理解が必要なこと、環境を守っていくためには、公害の恐ろしさを学び、一人一人が身近なところで、できることから行動していくことが必要なことを強調されました。参加者から、活発な質問があり、充実した講演となりました。

その後、新しくイタイイタイ病資料館の語り部となる中坪勇成さんの模擬講話を聴きました。語り部と解説ボランティアの皆さんから、たくさんの意見や要望、感想をいただき、今後の語り部講話本番へとつなぐことができました。これからも新しい語り部さんが生まれることを期待しています。

イタイイタイ病資料館活用研修会



▲展示解説

三原教授の
指導助言▶



ワークショップで意見交換



◀宮崎校長の
指導助言

水上先生の
総括▶



8月22日（金）、イタイイタイ病を教材にした学習の可能性を探り資料館や副読本を有効に活用するための研修会を開催したところ、県内14の小中学校から15名の先生方が参加されました。

まず、資料館が提供する学習メニューや副読本などの学習資料を紹介し、ホームページ画像などで資料館利用の説明をした後に、当館職員が展示解説を行いました。その後、富山国際大学の三原茂教授と小矢部市立津沢小学校の宮崎靖校長の指導助言のもと、2つのグループに分かれた先生方は、展示解説から、児童がどのような感想、問いをもつかを予測しながら、資料館や副読本を利用した授業の進め方について意見交換をしました。揺さぶられた児童の心をどのように生かし、主体的な学びへとつなげていけるのかと先生方は、真剣に考えをめぐらせていました。

最後に、富山国際大学元教授の水上義行先生は、「当資料館は、一級の教材であり、イタイイタイ病を今後も風化させないために教育が果たす役割は大きい。」と総括され、イタイイタイ病を題材とする教育の在り方について助言いただきました。

イタイイタイ病 語り部さんのおはなし会 — サテライト事業 —

6月28日（土）から7月27日（日）の間、イタイイタイ病資料館サテライト事業としてパネル展示「イタイイタイ病について学び、伝えよう」を魚津市立図書館玄関ロビーにて実施しました。県内の多くの方がパネルの前で立ち止まり、熱心に見ておられました。来館された高校生は、「川で流れたものはすぐに戻すことができないし、費用も必要になると考えるとすごく大変だと思いました。」と感想を書いておられました。

また、その期間中の7月12日（土）に小学校4年生以上から一般の方までを対象に、同館2階視聴覚室にておはなし会を開催しました。イタイイタイ病資料館語り部の江添良作氏に、イタイイタイ病の患者で裁判にも参加されたおばあ様との思い出や被害者団体であるイタイイタイ病対策協議会の副会長として患者の救済に深く携わっておられたお父さんとの経験をお話されました。参加された18名の方は、体験者の生の話を聞き、心を揺さぶられ、うなずきながら当時を偲ぶ方も見受けられました。



サテライト事業 パネル展示の様子



おはなし会での語り部講話



資料館の夏休みイベントを行いました

富山の将来を担う子どもたちがイタイイタイ病や環境の大切さについて学びました



夏休み自由研究講座 ～イタイイタイ病の学習と酸性雨の水質調査～

小学4・5・6年生を対象にした「夏休み自由研究講座」には、7組14名の親子が参加しました。

ガイダンス映像を視聴した後、資料館職員の解説を聴きながら展示室を回りました。神通川流域の農村に病気が発生した時期や要因を教わり、病気に苦しむ患者と家族の様子を再現したジオラマを見学しました。

さらに、地元の萩野医師たちによる病気の原因究明の努力、被害住民たちが団結して裁判勝訴にいたるまでの過程、その後の汚染農地の復元事業や今も続く発生源対策の取り組みについて学習し、イタイイタイ病の歴史や環境と健康の大切さに理解を深めました。

後半の「酸性雨の水質を調べる実験」では、薬学博士の朴木英治氏に「重曹の科学遊び」と題して、面白実験を演示していただいた後、富山市内に2か月間で降った雨水の酸性度を比較し、大気メカニズムと酸性雨が環境に与える影響を学びました。

初めて扱う簡易測定器に手こずりながらも、参加者は真剣に実験に取り組んでいました。閉講式では野田館長から参加児童全員に修了証が授与され、自由研究にも役立つ有意義な夏休みの思い出になりました。

開催日時：7月26日（土）＜13時30分～16時30分＞

内容：①イタイイタイ病についての学習
②酸性雨の水質を調べる実験（講師：薬学博士 朴木英治氏）



イタイイタイ病の説明



講師からの演示実験



全員に修了証の授与

参加者の声

- ・イタイイタイ病のことを知らなかったけど、知れてよかったです。（小学4年生）
- ・イタイイタイ病のことがよく分かったし、実験も楽しかったのでよかったです。（小学5年生）
- ・くわしく教えていただきありがとうございました。酸性雨の実験が特に楽しかったです。自由研究の参考にさせていただきます。（小学6年生）
- ・私たちが健康で安心して生活できるのは当たり前でなく、たくさんの方々の日々の努力のおかげであると感じました。普段できない実験をすることによって子どもがいろんなことに興味をもってくれたらいいと思います。充実しており楽しかったです。（30歳代保護者）
- ・イタイイタイ病を過去の話だと思っていましたが、今もなお立ち入り調査が続いていることに驚きました。詳しくお話が聞けてよかったです。また酸性雨の実験も簡単にでき、しかもその内容は公害につながる大事なことと気付かされ、とても勉強になりました。（40歳代保護者）

イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー



神岡鉱業(株)のシックナー前で記念撮影



清流会館での語り部講話

夏休みイベントの一つとして開催した「イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー」には、県内の小学4・5・6年生児童とその保護者11組24名が参加して、イタイイタイ病に関係のある場所を巡りながら公害病を克服してきた歴史を学習しました。

資料館に集合した参加者家族は展示解説を聴いてから飛騨市に所在する神岡鉱業(株)に向けて出発しました。

神岡鉱業(株)の工場では排水管理センターやシックナー（凝集沈殿装置）、たい積場を見学し、「環境安全最優先」の方針の下に、工場からの排水管理が徹底されていることを見てきました。

午後は、富山市大沢野グラウンド駐車場を出発点とし、牛ヶ首用水上流を回り、カドミウム汚染から復元された地域をバスで巡りました。バスの中で、清流会館の平岡孝進事務局長の説明を聴きながら見学し、安全で良質な米作りのための努力と工夫を学びました。

最後に被害者団体の拠点施設「清流会館」では、イタイイタイ病対策協議会の江添良作会長の講話を聴き、病気の実態と患者救済の歩みを教わりました。

猛暑の中でしたが全員が元気に資料館へ戻り、バスツアーを終えることができました。

開催日時：8月19日（火）＜8時40分～16時40分＞

見学場所：① 資料館
→ ② 神岡鉱業(株)（排水管理センター、シックナー、和佐保たい積場）
→ ③ 牛ヶ首用水上流 → ④ 清流会館 → ⑤ 資料館

参加者の声

- ・神岡鉱山の普段は入れないところを体験できてよかったです。（小学5年生）
- ・実際に語り部の方のお話を聞くことができ、よりイタイイタイ病のことに興味をもちました。（小学6年生）
- ・こんなによいツアーを知らない人が多いので、もっと宣伝してもよいと思います。今もなお苦しみがあるので、若い世代につなげていかなければなりません。（30歳代保護者）
- ・実際にたい積場などを見て、汚染対策はとて大がかりなものだと実感できました。イタイイタイ病の家族の方のお話を聞いて、資料で見ただけのときより、その辛さなどが伝わってきました。（50歳代保護者）
- ・説明していただいた内容も見学場所もスケールの大きさにびっくりしました。（70歳以上保護者）

中坪 勇成さん



中坪さんは、イタイイタイ病であったお義母さん（キミ子さん）が72歳から93歳までの間、一緒に暮らし、お義母さんの病状を見てこられました。お義母さんの要観察者判定及び患者認定に関わり、自身も神岡鉱業(株)への立入調査の専門委員を担っておられます。

地域にはまだ救われない患者さんがいると感じておられ、イタイイタイ病の病状で苦しみ、痛みに耐えながらも懸命に生きたお義母さんとの経験を話すことで、潜在的な患者さんを勇気づけ救いたいと考えておられます。



14歳の挑戦

来館した児童に展示物の説明をしているところ



当資料館では、令和7年7月1日（火）から4日（金）の間、「14歳の挑戦」として、富山市立興南中学校の2年生3名を受け入れました。「14歳の挑戦」とは、中学2年生が、学校外での職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、生涯にわたってたくましく生き抜く力を身に付けることを目的としたものです。3名の生徒は、イタイイタイ病にかかわる説明を聞いたり、仕事を手伝ったり、来館者への説明を補助したりしました。来館した小学生から、中学生の説明が分かりやすかったという声をたくさんいただきました。

イタイイタイ病資料館で学んだこと

- ・相手に分かりやすく伝えるには、原稿を読むだけでなく、抑揚を付けたり書いてないことを付け加えたりするなど、様々な工夫も必要だと分かりました。
- ・これからは、普段の挨拶を大切に、何か物事を調べるときは、疑問をもつということを学校生活に生かしていきたいです。
- ・私が学んだことは「コミュニケーションの大切さ」です。見学に来た人たちに分かりやすく説明するのが難しかったです。特に相手の顔を見ながら説明するのが難しかったです。

資料館インフォメーション

四大公害病の語り部講話を聴く集い ～語り部による伝承会～

四大公害病（水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）の資料館からそれぞれの語り部を招いて、語り部4人の講話をお聴きします。四大公害病の語り部講話を一度に聴講できる貴重な機会です。

日時：10月18日（土） 13時30分～16時30分
場所：イタイイタイ病資料館 2階交流学習ルーム
人数：会場参加 50名程度 オンライン聴講可
<参加無料>

これまでの出来事（令和7年度上半期）

令和7年

- 4月25日（金）～5月6日（火・振休） 春の特別企画展 『萩野昇医師の生きた時代』写真展
- 4月29日（火・祝） 春の特別講演会
- 6月14日（土） 語り部・解説ボランティア研修会
- 7月12日（土） イタイイタイ病 語り部さんのおはなし会
- 7月26日（土） 夏休み自由研究講座 ～イタイイタイ病の学習と酸性雨の水質調査～
- 8月19日（火） イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
- 8月22日（金） イタイイタイ病資料館活用研修会

これからの行事予定（令和7年度下半期）

10月18日（土） 四大公害病の語り部講話を聴く集い
～語り部による伝承会～

令和8年

2月8日（日） イタイイタイ病を考える県民フォーラム
（講演、学習発表等）



イタイイタイ病資料館で語り部講話を聴講しませんか。

資料館を団体（原則10名以上）で見学される場合は、事前に申し込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。

詳しくは資料館ホームページをご覧ください。

メールマガジン

【登録者募集中】

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】

発行/富山県立イタイイタイ病資料館

〒939-8224 富山県富山市友杉151番地（とやま健康パーク内）

電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833

(令和7年9月発行)

ホームページ

イタイイタイ病資料館

検索

富山県